



## 創立八十周年記念誌発刊に寄せて

校長 菊谷 一

「そのかみはるか域闊く・・・」と歌われたこの地に本校が開校しましたのは、大正十四年四月のことです。以来、激しく揺れ動く歴史の中で、八十年の時を刻んできましたが、本校が今日のよな社会的評価を得るようになるまでに、幾多の先人の計り知れないご苦労とご努力があったことを忘れてはなりません。

関東大震災後の経済的に困窮していた最中、秋田県立能代中学校として開校できましたのは、長年にわたる地元の方々の献身的なご努力とご熱意があったからに他なりません。男子教育機関設立への一途な思いは、知事への意見書の冒頭の件「一国文教ヲ以テ興リ、一国文教ヲ以テ亡ブ」に込められているとおりであり、以来本校の建学の精神として今に受け継がれているところでもあります。

戦後、人はその日を生きるのに追われ、他のことに目を向ける余裕などなかった時代、学制改革の前に、焼失した校舎の再建を切望する学校関係者、同窓諸兄、地元の方々の四年越しのご努力は見事に実を結んだのであります。昭和二十三年四月に秋田県立能代南高等学校と改称した後、定時制を併設、山本郡内には多くの分校・分室を設置して、この地域の教育の充実発展に寄与することになりました。

老朽化の進んだ木造校舎の改築に当たり、青春を謳歌するには狭隘となった樽子山に別れを告げ、

学習環境に適した広い静閑な地を高埜の田園地帯に求めましたが、この移転時におきましても、県及び市当局はじめ多くの方々の多大なるご厚情とご支援をいただきました。それから三十年経た現在、周囲を二千本余りの黒松に囲まれた校舎は、樽子山時代の面影をとどめながら、県下有数の教育環境を誇る進学校として、新たな歴史を創るべく力強く歩み続けております。

そして、少子化に伴う能代市内の高校再編という新たな問題に対し、能代市は他の地域に先駆けて市民の声を反映させた高等学校のあるべき姿を描き、県に要望したのであります。

厳しい時代の流れに翻弄されながらも、本校は着実に充実発展の歴史を積み重ねてまいりました。一人の若者の過ごした高校三年間は、八十年という時の流れの中ではほんのわずかな時間に過ぎませんが、彼の人生の中では生命力に溢れる大変意義のある時期だったに相違ありません。多くの試練に耐えつつ学び舎を築立った一万九千余名の卒業生は、校訓である「至誠力行」を一つの拠り所として、「文武両道」の道を邁進し、「克己誠実」「自発学習」「部活精励」に努め、校史に輝かしい足跡を残しながら、現在の清新澁刺たる校風を創り上げてくれました。

校史上重要な局面では、地元の方々をはじめ多くの皆様のお力添えがありましたことに衷心より感謝申し上げますとともに、私たちはその信頼とご期待に応えるよう、魅力ある学校づくりに一層邁進しなければならぬとの思いを新たにしております。在校生諸君には、母校の歴史を辿り、先輩たちに負けぬ情熱と気概を持つと同時に、「松陵健児」としての責任を全うし、本校の一層の発展と新たな歴史の創造に向けて努力することを期待しております。

おわりに、この記念誌の発行に当たり、貴重な資料をお寄せいただきました多くの方々、執筆をご快諾下さいました皆様様に感謝申し上げます、発刊のご挨拶といたします。